

東北海区沿岸水温予報(2001年)

海域	経過 (1~7月)	現況(7月中旬~ 8月上旬)	見通し (9~11月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水試発表)	津軽暖流域の水温は概ねやや低め~ 平年並、津軽暖流の東方への張り出しはやや強め~ 平年並。	沿岸定地水温は概ね平年並~ やや高め。この期間、定線観測なし。	津軽暖流域の水温は、表面はやや高め、それ以深は平年並。津軽暖流の東方への張り出しは平年並。	4~6月対馬暖流はかなり強めから平年並に戻る。7月はやや弱め基調。7月の対馬暖流域水温は、表面はやや高いものの、それ以深は平年並。日水研発表の日本海海況(7~9月)予報では、表面水温はやや高め、50m深水温は平年並の予報。	6月の定線観測で親潮或の水深50~200mに水温0台の冷水が観測
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水セ発表)	1月中旬頃より沿岸親潮水が本県沿岸部に南下し、2月には50以下の冷水が県中南部に接岸した。3月に入り、同冷水は県北部から金華山付近まで接岸の幅を広げた。1~3月までは、県全域で低め~ 極めて低めで推移した。4月以降は親潮の張り出しは弱まったものの、局所的に冷水が点在する形となり、平年並~ やや低めとなった。6月になると親潮の南下勢力が再び強勢に転じ、7月には本県北部沖合10~70海里付近から県南部沖合20~40海里にかけて細く南に張り出し、さらに南下していた。	50以下の親潮第一分枝に連なる冷水は、本県沿岸部~50海里付近にかけて帯状に存在している。また、その沖合にも局所的に冷水域が認められる。特に、尾崎沖30海里的の100m深で0台の水帯が認められる。表面水温では黒崎沖50~70海里で平年を1上回ったものの、それ以外では平年並~ 1下回っている。また、100m深水温では黒崎沖合50~70海里付近で平年を1上回ったものの、それ以外では平年を大きく下回っている。特に、尾崎沖合30~50海里付近では、平年を5~6下回っている。	10海里以内及び10~70海里ともに表面では平年並~ やや高め基調、100m深では平年並~ やや低め基調に推移する。	津軽暖流の南下勢力及び親潮第一分枝が岸寄りに推移していること。仙台管区気象台発表の3ヶ月予報によると、8~10月の気温は平年よりも高めに推移すること。親潮第一分枝に連なる冷水が50m深から底層まで鉛直的に幅広く分布していることから判断した。	県内主要6港における水揚げ状況(7月下旬現在)スルメイカ(いか釣り)が低調に推移し、年累計で310トン(前年比44%)。サバ類が大船渡を中心に水揚げがみられ、年累計で600トンと好調(前年の約6分倍)
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水セ発表)	1~3月は親潮第一分枝の南下により、表面・100m深とも平年より2~8低め。4月は沖合からの暖水波及により、沖合海域で表面・100m深とも平年より2~4高め、沿岸海域では平年並~ 2低め。5~7月は再び親潮第一分枝の影響を受け、5~6月は北中部海域を中心に7月は142°10'~40'Eの海域で帯状に表面・100m深とも概ね2~5低め。	142°E以東の南部海域に黒潮系暖水が波及し、平年に比べて表面で2~3高め、100m深で2~6高め。142°E以東の北中部海域に親潮系冷水が差込み、平年に比べて3~8低め。	表面は、北部海域でやや低め~ 平年並、南部海域は平年並~ やや高めで推移。100m深は沖合南部海域で平年よりやや高め、他の海域では低め~ 平年並で推移。	親潮第一分枝に連なる冷水が北から差込み、この海域は南~南東向きの流れである。近海の黒潮系暖水の北への張り出しは平年より北偏傾向で、本県南部海域はこの影響を受けるが、流路の変動に伴う水温変化も考えられる。	クロマグロ、メジ不漁(前年比それぞれ6%、1%)。7月のスルメイカ漁場位置が例年より南寄り。
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試発表)	1月: 表層、下層とも単調に推移。2~3月: 東経142°線に沿って冷水が南下し、表層で0~2台と、極めて低め。4月: 低め基調が持続し、前月より沿岸寄りに冷水が南下。黒潮系水の北上弱く、南部で低め~ 極めて低め。5月: 黒潮系水の勢力が強まり、極めて高め。6月: 県北部海域に親潮系水の差込みがみられるものの、黒潮強勢は持続し、県中~ 南部で高め~ 極めて高め。7月: 黒潮系水の北上は沖寄りとなり、親潮系水が南下し、沿岸部に冷水域が形成された。県南部海域ではやや高め~ 極めて高め、冷水域のみられた県中部ではごく沿岸部でやや低め~ 低め、県北部沖合で低め。	黒潮系水の北上は依然強勢。県北~ 県南の沿岸部には、前月に引き続き親潮系水の南下がみられる。表層、下層とも、親潮系水の波及した距岸50海里以西では平年並み~ やや低め、以東では高め~ 極めて高め。	県南部海域は沖合を中心に高め、県中~ 北部海域で平年並み~ やや低め。	黒潮系水の勢力は依然として強いものの、北上勢力の中心は沖寄りとなり、沿岸部には親潮系水の波及が見込まれるため、県中~ 北部海域で平年並み~ やや低めとした。	2~4月、平年値を大きく下回る冷水が南下。4月下旬以降、オキアミ漁場の形成がみられず、低調。5月中旬~ 下旬、曳釣りによるカツオ漁場がいわき海域に形成。

常磐南部 ~ 鹿島灘 (茨城県沿 岸; 茨城水試 発表)	1 月:沿岸域に暖水舌が形成され、常磐南部の沖合域には黒潮系暖水が波及していた。常磐南部沖(141°15'E付近)に親潮系冷水の差込がみられた。2 月:沿岸域に暖水舌が形成されていた。親潮系冷水(1 台)が常磐南部沖まで南下した。3 月:欠測 人工衛星画像から親潮系冷水は県中央部まで南下していた。鹿島灘に暖水舌が形成されていた。4 月:黒潮は沖合域に存在し、沿岸域に黒潮系暖水が波及していた。黒潮の張り出しにより親潮系冷水は塩屋崎沖まで後退した。5 月:黒潮は本県沖を北上し、黒潮系暖水に広く覆われていた。6 月:黒潮は本県東方沖を北上し、黒潮系暖水に広く覆われていた。7 月:黒潮は本県沖を北上し、黒潮系暖水が沿岸域に波及していた。	8 月:黒潮は南偏しているが、沖合から沿岸域に黒潮系暖水が波及している。	水温は「高め～極めて高め」で推移する。	4 月中旬以降黒潮の勢力が強まり、水温は「高め～極めて高め」で経過している。近海の黒潮の北限位置がやや北偏して強い。常磐～鹿島灘沖では黒潮の離接岸変動に伴って、暖水波及が継続している。以上のことから水温は高め基調で推移すると考えられる。	最低水温(1 台)を観測した(2 月)。4 月中旬に黒潮の勢力が急に強まり、親潮系冷水が福島の北限位置がやや北偏して島県沖まで後退した。5 月中旬に黒潮が接岸し、最高水温を観測した。ヤリイカが豊漁であった(2 月底曳き網)。カタチイワシが豊漁であった(4～5 月まき網)。マシラス・サバ幼魚・コマセの混じりが多かった(5～6 月船曳網)。タイが不漁であった(5～6 月流し網)。7 月のシラス漁が過去最高であった(船曳網)。
---	--	--------------------------------------	---------------------	--	--

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸 10 海里内	距岸 10～70 海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4 ~	+4.0 ~	+6.0 ~	+2.4 ~	+4.0 ~	+4.0 ~
高い (7.5%)	+1.6～+2.3	+2.5～+3.9	4.0～+5.9	+1.6～+2.3	+2.5～+3.9	+2.5～+3.9
やや高い (20%)	+0.7～+1.5	+1.0～+2.4	1.5～+3.9	+0.7～+1.5	+1.0～+2.4	+1.0～+2.4
平年並み (40%)	+0.6～-0.6	+0.9～-0.9	1.4～-1.4	+0.6～-0.6	+0.9～-0.9	+0.9～-0.9
やや低い (20%)	-0.7～-1.5	-1.0～-2.4	1.5～-3.9	-0.7～-1.5	-1.0～-2.4	-1.0～-2.4
低い (7.5%)	-1.6～-2.3	-2.5～-3.9	4.0～-5.9	-1.6～-2.3	-2.5～-3.9	-2.5～-3.9
極めて低い(2.5%)	-2.4 ~	-4.0 ~	-6.0 ~	-2.4 ~	-4.0 ~	-4.0 ~